

涼しげに花蓮

山里に清らかに

はすまつり

7月1日(日)、南条花はす公園ではすまつりがオープンしました。

今年の開花は、春先に気温の低い日が続いたことで、例年より1週間ほど遅め。一番花は、昨年と同じ6月23日、「飛舞」と「舞妃蓮」が咲きました。

7月中旬からほぼ満開となり、県内外から多くの観光客が訪れ、純白やピンク、花弁の先が淡い紅色など、涼しげに色あでやかに咲き揃った花はすを楽しんでいました。



▲舞妃蓮



▲カスピカム

新種がお披露目

今年の南条花はす公園には、3つの新種がデビュー。まず、最初にお披露目したのはカスピカム（ロシア産）。今年初めて7月上旬に咲きました。

“勾当玉女”は“建多玉女”から生まれた新種。今年は8月頃に咲きそうです。

ミニ今庄宿バスツアー



観光ボランティアガイドが説明しながら、旧宿場町の今庄宿の街並みと造り酒屋を案内。今庄の街並み散策を楽しみました。

象鼻杯

はすまつり名物象鼻杯。今年も多くの人が体験。



公園が幻想的に変身 花はす灯ろう展示

はすまつり期間中のイベントとして、今年初めて花はす灯ろうを展示しました。

これは、京都市在住で、はすに関する創作活動に取り組む中川光年さんが、和紙で花はすを模した灯ろう大小約80体をはす公園の観賞池やその周りに飾り付けライトアップしたもの。「夜の花はす公園を灯ろうで飾るときっと素敵だろう」と感じたのがきっかけとなって実現しました。

花はす灯ろうの見学に訪れた人たちは、「とても幻想的で綺麗。夜は花が見れないと思いましたが、明かりでほんわりと花も浮かんでいるようですね。」と、優しい明かりが照らす公園内を散策していました。